光の家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 132号 —

2005年4月25日発行

神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。わたしは知っている。人にはその生きながらえている間、楽しく愉快に過ごすよりほかに良い事はない。

伝道の書
第三章　一一節～一二節

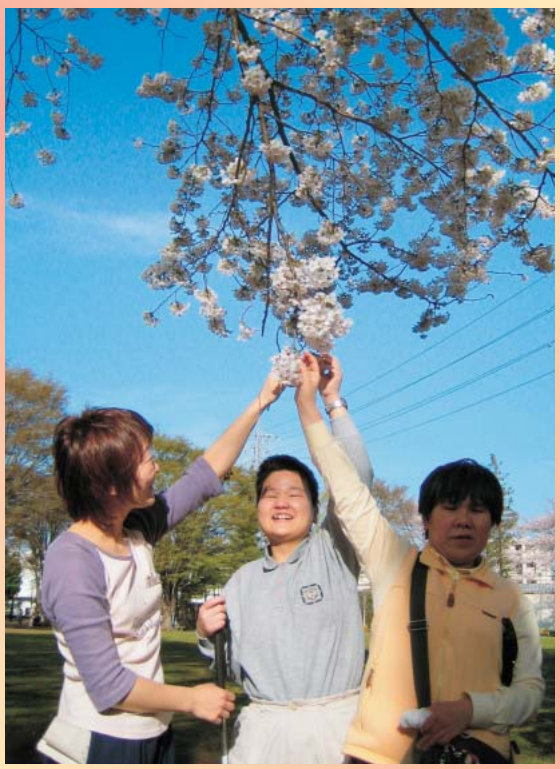
巻頭言

祈りと喜びと感謝

理事長　田中亮治

（1）

私の書斎兼寝室ベッド脇の壁には、ここ数年来「星野富弘」さんのカレンダーがかけられており、朝な夕なに否応なく目にとまるようになっている。毎年の暮れに、障害を持つあるクリスチャンの方からプレゼントされ、大切にさせて頂いているカレンダーである。



4月に入りやっと桜が開花　触覚で味わう春の匂い

星野 富弘氏プロフィール

一九四六年（昭和二一年）、群馬県に生まれる。

体育教諭になるが、頸髄を損傷し、手足の自由を失ってしまう。病院入院中に絵や詩を描き始め、一九七九年、前橋で最初の作品展を開く。それ以来、全国各地で「花の詩画展」が開催され、大きな感動を呼んだ。

一九九一年、彼の故郷の勢多郡東村に富弘美術館を開館。

一九九四年以降はニューヨークをはじめ海外でも詩画展が開催され、作品の持つあたたかさ、やさしさが世界中で好評を博しているとのことである。現在も自宅で詩画やエッセイの創作活動を継続中である。

彼の詩画の一つに、妙に私の心をとらえて離さないこんな詩がある。

「――旅行です。晴れにして下さい。田植えです。雨をお願いします。日本中から願いごとで　神さまも困った。それで半分ずつかなえてあげましょう　というのでしょうか今日は曇り――」。

私も天地創造の神を信じて生きているので、生活上のあらゆることを神さまに祈っている。私の祈りの中には矛盾した祈りも一杯ある。自分にとって都合の良いことを祈り、他人にとっては都合の悪いようなことも毎日のように神さまに祈っている。例えば、施設の行事にあたっては、〝どうか雨が降らないように〟とか、あまりにも日照りが続くと〝雨が降るといいなあ〟とか、この種の祈りをしょっちゅうしている。

でも、世の中には雨が降らなくて大変困っている人たちもいるだろうし、反対に雨が降ってとても困る人も沢山いるのも事実である。きっと神さまの前には「雨が降るように」、「雨が降らないように」の祈りが無数に飛び交うのではなかろうか。

(2)

神さまは、このような無数の祈りをどう捌かれるだろうか。神さまにも、どうしてよいかお困りになることなどあるだろうか。そう、すべての人の祈りに応えて、最善の愛をもってその解決策をつくるには、もしかしたら愛の故に、神としての困惑はあるかも知れない。ただ、この困惑は、人間の困惑とは全く異質のものだと思う。ともあれ以上のような乱暴な想像をする時、きまって思い起こす聖書のことばがある。それは「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強い」(第一コリント一章二五)。勿論、神に愚かさや弱さはないと思う。でも、星野富弘さんは「神さまも困った」とお感じになったのかも知れない。私はここに星野さんの思いやりと優しさとを見た。毎日のように祈りを捧げられる星野さんは、祈りは必ず聞かれるであろうとの確信を抱きながらも、控え目な謙虚な星野さんのお人柄を感じてならないのである。

それにしても、神の捌きは絶妙である。神の愛はお見事な智恵（賢さ）に満ちている。人の嫌がる「曇り」の中に、神の義と愛に裏づけられた神の賢さと強さを感じとる星野富弘さんの感性にはほとほと感心するだけである。脱帽である。

耐え難い頸髄損傷に見舞われた星野富弘さん。ご不自由な障害の重荷を負いながらも、祈りを捧げ、感謝と喜びをもって生きられ、多くの人々に希望と勇気を与える星野さんの詩に、私も生きる勇気を与えられている一人である。私の身近にも、星野さんのファンが沢山いることを記して感謝するものである。

会報五言

一、高ぶりが来（く）れば、恥もまた来る。
　へりくだる者には知恵がある。

一、正しい者の誠実はその人を導き、不信実な者のよこしまはその人を滅ぼす。

一、悪しき者の堅固なやぐらは崩壊する。正しい人の根は堅く立つ。

一、なまけ者の心は、願い求めても、何も得ない。
　しかし勤め働く者の心は豊かに満たされる。

一、知恵はその家を建て、愚かさは自分の手でそれをこわす。

（以上の五言はすべて聖書「箴言」より、一一章、一二章、一三章、一四章）

東京光の家は日野に在る

東京都議会議員　古賀俊昭

平成一六年、日野市では市を挙げて新選組を通しての、まちづくりに取組みました。大河ドラマの放映とも相俟って展覧会場や日野宿本陣等に全国から約三〇万人が訪れて、日野の新たなまちの顔が浮かび上がりました。幕末激変の時代に飽く迄も武士らしく、男らしく生き抜いた土方歳三や井上源三郎を、そして新選組を専心支えた佐藤彦五郎を輩出した日野市は正に新選組のふるさとです。

この郷土の歴史と人物に光を当てる事は日野市の観光面での活力となるばかりか青少年教育にも少なからず意義ある事です。

私は仕事柄、政治行政をはじめ様々な分野の方々との交流の機会があります。その際、我がまちを紹介する折には新選組と共に可能な限り「東京光の家」―「正秋バンド」に触れて私なりのまち自慢を実行しています。

私と光の家との御縁は既に二〇年以上に成りますが、田中理事長を先頭に施設職員皆さんの明朗闊達で使命感に満ちた仕事への姿勢は一貫して変る事がありません。光の家が日野市に移転されたのが昭和三三年。五〇年近くの歳月を刻んですっかり日野の大地に根を張り今日、視覚障害者総合福祉施設として、利用者や御家族をはじめとして多くの関係者から高い評価を得ておられるのは、施設運営の根底に内村鑑三に聖書を学んだ盲目の創立者・秋元梅吉氏の宗教的倫理的意志が脈々と流れているからだと思います。

私はキリスト教徒ではありませんが、学生時代に内村鑑三の「代表的日本人」に出会い、非キリスト教徒であっても公の精神、武士道精神の精華として自信をもって世界に紹介した内村鑑三に魅了されました。今でも私の机には茶色に変色した同書と共に「後世への最大遺物」「一日一生」の文庫本があります。

現在私は、光の家の賛助会や光の家愛のサウンド後援会で光の家応援団の一人としてお手伝いをしていますが、都議会議員としての立場からお役に立つ事も重要ですので、例えば平成一五年の措置制度から支援費制度への移行や、都の民間福祉施設サービス推進費補助再構築に関しても施設独自のサービス向上の努力や改革に対する加算の確保にも努めたところです。

先日車を運転中にラヂオから「トントン・これはドアです。ドンドン・これは看板です。私は音で障害物がわかります。でも物を避けるのは苦手です。点字ブロックを空けて下さい。（記憶で正確でない所も）公共広告機構です」と聞こえてきました。瞬間私は、光の家の皆さんがよく外出される中央線豊田駅北口周辺の歩道点字ブロックに自転車等を置かない啓蒙も心懸けねばと感じました。

同時に私をして江戸時代、群書類従を編纂した盲目の国学者・塙保己一を想起させ、また障害の有無を越えて多くの人達に勇気と感動を与えてくれる正秋バンドへの支援も更に広く呼びかけて私の日野の「まち自慢」の話のより完璧を目指したいと思います。

各施設のトピックス

身体障害者更生施設　光の家新生園

自立への第一歩

桜の開花が遅かった今年度ですが、光の家新生園では、この春に盲学校を卒業した男性一名と女性三名の新入園生を迎え入れました。四月四日の入所式では、学生服ではなく凛々しいスーツ姿で入場。やや緊張している様子は見られましたが、皆さん、元気で大きな声で自己紹介することが出来、迎える在園生からも温かい拍手が送られました。

入所式　それぞれ元気よく自己紹介

新生園では開設以来、盲重複障害者のための治療及び訓練をすることにより、自立を図るように支援しています。そのための第一歩として、入所してからの一ヶ月間は保護者との面会はもちろん、電話などの連絡も一切行わないようにしています。一見かわいそうではありますが、この期間に新しい環境に慣れ、各居室の仲間を中心に人間関係を作っていき、そして親離れができるように図っていくのです。五月の連休の頃には、保護者の方も知らなかった?逞しい姿を見せてくれることと思います。

しかし、誰もがスムーズに適応していくわけではありません。集団生活の経験がない方や極少人数の中で暮らしてきた方などは、ホームシックになったり、それに伴う問題行動が見られることもあります。我々はこれらの問題に対して、開設から二五年間培ってきたノウハウを活かしながら支援に当たっています。

障害者自立支援法、グランドデザイン…。入所施設はこれからも厳しい時代が続いていきます。そんな時代にあっても、我々は個々のニーズに合わせた訓練や生活を通して、安心と安全と希望をもって生活が出来るように支援していきたいと思っています。

（新生園訓練課主任　小倉実知彰）

身体障害者授産施設　光の家栄光園

安心・安全・希望のある生活を

栄光園は授産施設として、利用者は働く事をメインにおいて生活していますが、一人一人が力を入れて作業に取り組むためには、生活面を職員がしっかりサポートする事が非常に重要となります。心身ともに安定した生活があって仕事への意欲へと繋がり、ひいては生活全体の充実と成長に繋がります。

栄光園では平成一六年度に夕食時間の変更に伴い、日課の大幅な変更を行いました。変更前は、月に一度全員で豊田に買物に出掛けていましたが、もはや、施設も大集団で行動する時代ではない、との認識にたち、買い物日を設定し、小グループ（利用者六名と職員三名）に分かれて八王子へ出掛けるようになり

ました。これは行動範囲を拡大し、社会性を養うと共に気分転換にもなり、今ではさらなる作業への意欲へと繋がっています。

また、必要に応じて月に一回、身辺処理を行う時間を個別に仕事の時間を割いて設定しました。定期的に身辺処理を行う事で、生活の場が整えられ、気持ちにもゆとりができ、また衛生面の意識が高まるようになりました。授産施設として働く時間に生活面のプログラムをどう調和させるかは、二律背反の関係にあり、私たちの長年の課題でもありました。これらは日課変更の一例ですが、以前に増して密に利用者と関わる機会も増え、職員の目が行き届くようになりました。

小グループで、さぁ歩いて買い物へ　GO！

作業面と生活面を両立させる事は、非常に重要な事と現場職員は考えています。そのためには、安定した生活環境が第一に求められ、今回の日課変更は、その点で今後に繋がる大きなものであったと自負しています。光の家が掲げるスローガンの「安心と安全と希望～生活には喜びを」をモットーに職員が一丸となって生活状況・作業状況を把握し、様々な角度から利用者をサポートしていくことが大切です。私は、生活指導員の立場として一生懸命利用者のニーズに向き合っていきたいと思っています。

（栄光園指導課　斎藤真弓）

救護施設　光の家神愛園

八〇通りの自己実現に向けて

福祉施設にとって、利用者主体の福祉サービスの実現が近年特に強く求められるようになってきました。東京光の家でも、新生園、栄光園が対象となる支援費制度では、利用者一人一人に対しての個別支援計画の策定が明確に求められています。この流れを受けて、救護施設でも、独自の個別支援計画を導入する事になり、神愛園でも平成一六年四月から一年をかけ、八〇名分の個別支援計画を立ててきました。

自分で立てた目標に向かって日々努力

神愛園では、現在のように個別支援計画の必要性が叫ばれるより以前から、年度初めの利用者個別の目標設定と、年度末の評価を行っていましたが、今年度導入を行った個別支援計画では、「利用者主体」をより進めた形となっており、利用者本人とじっくり面接を行った後、希望に沿った形でニーズを細かく分析し、支援目標、計画を立てていくようになっています。神愛園では約八〇名の利用者がいますので、支援計画は八〇通りできることになります。しかも、利用者のみなさんは、多種多様な人生経験を経ている方ばかりなので、支援計画の多種多様ぶりもなかなかのものです。

利用者のみなさんの体調の変化や障害の重度化も、近年変化が激しくなってきていますので、計画を立てたらそのままということはなく、計画の見直し（モニタリング）時期をあらかじめ決めておき、利用者の変化に素早く対応し、支援内容を変えていく態勢も整っています。

さらに、この個別支援計画では、本人のニーズに対し、施設として対応・改善すべき課題までも明確に洗い出すことができる仕組みにもなっています。

我々職員もそうですが、いきなり「将来の希望は?」などと聞かれてもなかなかはっきりとは答えられないもの。

面接での、数少ない言葉と普段の生活のねばり強い観察の中からその利用者のニーズを引き出す力が我々職員にますます求められています。

（神愛園指導課　草間　樹）

盲人ホーム　光の家鍼灸マッサージホーム

利用者の技術向上と接客マナー学習の為に、昨年五月より、長い間ご指導下さったA先生に代わり、B先生に研修指導に当たって頂いております。

これを機会にさらなる技術向上にと研修に励む利用者の皆さんと四つに組んで下さる頼もしい方をお迎えする事が出来ました。そんなマッサージホームに乞う御期待！是非お立ち寄り下さい。

救命講習会で心肺蘇生法を学ぶ

職員親睦会の「和の会」では、毎年職員一日研修を企画しています。今回は全職員が二班に分かれ、普通救命講習及び防災館にて地震体験や煙体験の講習を受講しました。

救命講習では心肺蘇生法（人工呼吸・心臓マッサージ）や止血法を受講し、参加した全員に救命技能認定証が交付されました。その他AED（自動体外式除細動器）の講習も受ける事が出来ました。AEDとは心臓に対する電気ショックの事で、AEDの講習は事業体としては当施設が第一号でした。今迄はAEDの取り扱いは特定の人に限られたものでしたが、昨年の七月より、一般市民にも使用が認められることになりました。しかし知識があっても緊急事態に遭遇した場合には、なかなか手が出ないものです。今回の研修目的は職員の技量の平均化を目指したものでした。

緊急時の対応には確実さ・迅速性が要求されます。慌てない平常心と、少しの勇気も必要なのです。学んだ事が画餅で終わっては勿体ない事です。

（医務課係長　古川あや子）

保護者会

施設だからこそ育つ力

林　美智子

昨年、一二月の保護者会ではこれからの施設のあり方としてグランドデザイン案の説明をしていただきました。障害種別をなくす法案に、障害の個性が余りにも違い過ぎ、指導方針も著しく異なった場合は、それに伴い指導員の問題も生じてきます。利用者や施設側の立場になってのグランドデザイン案であって欲しいものです。

光の家では、一人ひとりのニーズや適性に合った総合的支援プログラムを作成していただいております。具体的な生活場面を通じて日常生活の知識を身につけ、一歩一歩成長している様子が何気無い会話や表情から感じ取れます。また集団生活をしている中で相手の事を理解し、助け合ったり、我慢したり、人を思いやるやさしい気持ちが育ち、人間関係を築き上げる大切な生活の場です。脱施設などと言われている中、職員の皆さんや周りの人達に温かく見守られながら、「社会性」、「協調性」、「生きる力」、「働く力」、「思いやる心」等、施設だから育っていく力がいっぱいあります。住まいとしての機能と日中訓練の場としての機能をもつ、「光の家は最高の施設」と誇りにしています。

朗読サークル「ひの」

発表会

田辺　きよ子

三月三日の朝一〇時から夕方近くまで、光の家の研修室で朗読サークル「ひの」の発表会を開催させて頂きました。三〇名程の会員が四つのグループに分かれ、午前、午後各二グループずつの朗読です。内容は現代小説、時代小説、民話、エッセイ、紙芝居と様々です。一年間勉強してきた事を上手く表現できるか皆一生懸命でした。

光の家の園生さんや職員さんも各グループの朗読に合わせて入れ替り立ち替り大勢で聴きに来て下さいました。楽しんでいらっしゃる様子が出演者にも伝わってきました。私達のサークルは毎月光の家に朗読ボランティアに伺っていますので、親しみを持って聴いて下さっていたのでしょう。ところどころ聴き覚えのある声が出てきたのではないでしょうか？お陰さまで、ささやかな発表会でしたが温かい拍手に励まされながら無事に終えました。年一回の私達の発表会は日頃の勉強の成果発表の場で、その技量不十分な拙い朗読を熱心に聴いて下さり有り難うございました。また、光の家の皆様には、発表会開催にあたり様々な御配慮を頂き心から感謝しお礼を申し上げます。

手さぐりの作品展
触れて感じる作品展

去る二月二五日～三月二日、立川ルミネ九階朝日ギャラリーに於いて、第一〇回手さぐりの作品展『生きるあかし』が開催されました。

今回は〝四季〟をテーマに、陶芸では四角い氷の柱、木工では全長三mの帆船、籐細工ではカーテン状に編んでオーロラを、そして手芸ではミシンと刺繍で色鮮やかな虹、等々、各作業内容の特色を表した作品を作り上げることができました。作品作りをする上では、単独作業にじっくり取り組む園生や各々の行える内容を生かして共同作業に挑戦する園生など様々でしたが、どの園生も多くの方に披露することを励みに頑張りました。

当展示会の目的は作業訓練の集大成を展示するだけでなく、その名の通り多くの方に「触れて感じてもらう」ことを意図しています。視覚から得たイメージに留まらず、作品に触れ、その緻密さや素材の柔らかさ、温度感などを感じて頂くことで、改めて園生の作業風景を伝えられたように思います。また作品を通して園生との共感に少しでも繋ぐことができたとしたら何よりの喜びです。

今回の開催期間には四〇〇名近くの方がお越し下さり「元気をもらいました」等の感想を多数頂きましたが、園生・作業スタッフの更なる励みとなりました。また開催準備にあたって、ご協力を賜りました方々に深く感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

（新生園訓練課　大野章子）

手さぐりの作品展「生きるあかし」当作品展の模様が日本テレビにて、二月二〇日、三月二〇日、四月一七日朝五時二五分より五時三〇分まで放映されました。

平成一七年度 辞令交付式

光の家では毎年、年度始めの四月一日に辞令交付式を行います。今回は昇格した職員五名と新任職員が緊張の面持ちで整列し、理事長の激励の言葉とともに辞令が手渡されました。新任職員は事前に職員としての心構えやマナー、盲重複障害や救急法等についての研修を受けてこの日を迎えました。いよいよ新たなスタートの時です。

東電学園ボランティア体験

今年も光の家では、多くの人々に少しでも盲重複障害者に対する理解を深めていただくため、総合学習の受け入れやボランティア活動の場を提供しています。

今回は東電学園からの二九名の生徒の皆さんに施設内の清掃を中心としたボランティア活動を体験していただきました。そして後日、たくさんの感想文を送っていただきましたので、ここでいくつか紹介したいと思います。

○今日一日の過ごし方の中で間違いに気づかされました。それは視覚障害者の方とすれ違う時に挨拶をせず、会釈だけして通り過ぎたことです。普段なら通用することなのですが、これは今日一番の失敗でした。

○自分も色盲症で、見ている色に自信がもてないことは度々あります。自分は『色』というたった一つの情報がわかりにくいだけで自信がもてなく苦労しますが、光の家の人達は全てが見えません。それがどれだけ大変なのか自分には想像できません。しかし、今回ボランティアで施設内の清掃をしながら利用者を見ていると、自分たちとあまり変わらないのではないかと思いました。むしろ挨拶はしっかり返すし、何より元気があると思いました。『生きる』ということを考えれば、ここの人たちの方が自分たちより一生懸命に生活していると思います。施設の利用者の人たちはお互いに助け合い、思いやりを持ちながら生活していたと思いました。今回のボランティアはとても充実したものになりました。今回学んだこと、相手を思いやる気持ちを忘れずに、これからも生活していきたいと思います。

○入居している方々の各居室にある照明と廊下の蛍光灯を掃除しました。照明を掃除し終わり「失礼しました」と部屋を出ると、「どうもありがとね」と、その掃除をした部屋の方が言ってくれました。その時、不意に言われた一言にとても心が温かくなりました。その時、ボランティアが少し自分の中で楽しいものに変わりました。

現在、各地でボランティア活動が活発に行われていると思います。その内容も様々だと思います。今回のボランティア体験に参加された二九名の方が、この体験で得たもの（感じたこと）を、ぜひ忘れることなく、今後ご活躍されることをお祈りいたします。

地域との連携図る 災害活動相互応援協定

東京光の家では去る一月二三日、日野消防署のご尽力により、地域の三つの自治会（旭が丘一丁目第一自治会、第二自治会、富士見会自治会）、及び㈱東芝日野工場と、「災害活動相互応援協定」を締結いたしました。この協定は火災や震災等が発生した場合、互いに協力して救出や救護活動等を行い、被害を最小限に防止することを目的としています。

三月七日には日野消防署も参加して、初めての合同防災訓練を行いました。今回は訓練の見学やテント設営の他、利用者のヘルパーをしていただきましたが、訓練に参加して光の家をより身近に感じて下さった方が多かったようです。

訓練終了後に行った懇談会では、活発なご意見・ご提案をいくつもいただきました。皆さんが光の家のことを日頃から気にかけ、関心を寄せて下さっていることを伺い、大変勇気付けられると同時に、改めて地域交流の重要性を感じました。

短い時間ではありましたが、地域の自治会、企業、消防署、そして光の家が集ったこの防災訓練が、地域の連携をより一層深める機会となるよう願っています。

平成一六年度のしめくくり

三月の終わりには、三施設がそれぞれ一年間のしめくくりの行事を毎年行っています。三月二三日、二四日、二五日と三日連続で、日頃お世話になっているボランティア・保護者及び沢山の関係者を招待します。一部は式典及び表彰式、二部は会食、三部アトラクションと、各施設とも趣向をこらした出し物が発表されました。

讃美歌と聖書を読み式典を行う

1年がかりでつくり上げた創作劇「矢部大学病院物語」

アトラクションで「手のひらを太陽に」を元気に演奏！

平成一七年度 永年勤続者

◆総務課係長　横引公一

「主はあなたを守るもの、主はあなたの右の手をおおう陰である・・・主はあなたの出ると入るとを守られる」この言葉は聖書の一節ですが三〇年を経て、改めて実感しています。

かつて光の家の寮生であった盲人牧師の紹介で、昭和五〇年四月に就職しました。同期の仲間も去り、先輩方も今はほとんどいません。一万千有余の日々を光の家で勤められたのも、理事長はじめ職員、利用者の皆さんに恵まれ支えられ、しかも神様に守られてきたことそれ以外にありません。多くの方々の喜びも悲しみも、苦しみやつらさも何分の一を共に生き、励みとさせて頂けたものと改めて感謝するものです。今後は、利用者にとって「無くてはならないもの、最善なもの」を見極め、守り、残していけるよう努めていきたいと思います。

三〇年表彰
横引　公一（総務課係長）

二〇年表彰
藤巻　契司（神愛園指導課課長）

一〇年表彰
鈴木栄美子（新生園指導課主任）
岡部　智子（新生園作業訓練係）
岩間　雅登（食事課調理係）

◆神愛園指導課課長　藤巻契司

学生時代、社会福祉を専攻していた私ですが、新卒で選んだ仕事は福祉とは無縁のものでした。それなりにやり甲斐もあり、楽しく仕事をしていましたが、何となく物足りなさを感じるようになり、光の家に転職し、二〇年が経ってしまいました。

この二〇年間色々な事がありました。正直、辛いことも数多くありましたが、今振り返ると全ての事が私の人生に必要な事だったと感謝しています。そして多くのことを与えられた幸せを実感しています。

若手の職員を育てなければいけない立場でもあるので、これからは与えて頂いたものを私なりに少しずつ、返していこうと思っています。

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

寄付者名簿

平成一六年一二月一六日～平成一七年四月一五日

公益信託宮川髙子記念障害者福祉基金様
栄光園生活環境改善関連工事及びバリアフリー化工事費　一六〇万円
三井物産㈱様（東京善意銀行を通して）
日韓出会いのコンサートチケット　一一枚
三菱重工業㈱様
三菱重工労働組合本社支部様（東京善意銀行を通して）
形状記憶スプーン・フォーク　各七本
㈱ハウジング恒産様　常備薬セット　二セット
錦戸部屋　錦戸将斗様　みかん　一〇kg
りんご　一一kg
城山鶏園　加藤奉文様　鶏卵　四〇五個
市川久子様　青菜　四六kg
水菜　一三五kg
白菜　一六kg
小松菜　五七kg
ルッコラ　一〇kg
石川雅也様　りんご　二二kg
広瀬進様　りんご　三〇kg
船田功様　みかん　二〇kg
加藤勝子様　八〇円切手　一〇枚
伊藤明子様　日本茶　一kg
鳥本みゆき様　長葱　二〇kg
竹内良子様　毛糸　六一玉
浅石常勝様　いよかん　一八〇個
向井冨士枝様　毛糸　三五七玉
壱岐よし子様　毛糸　九五玉
熊谷幸夫様　わかめ　二〇kg
仲嶺裕子様　もずく　一七kg

創立者秋元梅吉 聖書講話集CDが完成！

この度、創立者秋元梅吉の追悼三〇周年を記念して、一九六六年一～二月に行われた六回の聖書講話を収録したCD（二枚組み）を作製しました。オープンリールに録音されていた肉声からは、亡き創立者の強い信仰を感じることが出来ます。

このCDをご希望の方は、東京光の家までご連絡ください。

「みつばちマーヤ」のご案内

日本のプチ・ファーブルと呼ばれる熊田千佳慕先生（九三歳）が、東京光の家のために描いて下さった絵本。私達に命の大切さと、家族の絆に支えられ、みんなが仲良く愛を持って生きることを教えてくれます。たぬきの毛三本の筆で何ヵ月もかけて描かれた精巧な絵は、幅広い年齢層から支持されています。（申し込み先　東京光の家）

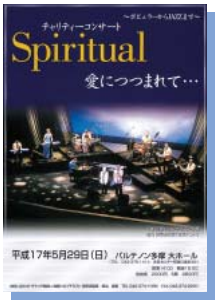
定価　二、〇〇〇円（送料別）

※この絵本の収益金は障害を持つ人達のために役立てられます。

秋バンド 今後の予定

○Spiritual 愛につつまれて…

日時　平成一七年五月二九日（日）
　　開演　午後三時〇〇分
会場　パルテノン多摩　大ホール
　　（多摩センター駅下車徒歩三分）
チケット　S席　二八〇〇円
　　自由席　二〇〇〇円
問い合せ先　国際ソロプチミスト多摩
　　会長　遠藤
TEL　〇四二（三七四）一〇九八



○黒磯ライオンズクラブ 結成四〇周年記念コンサート

日時　平成一七年六月一九日（日）
　　開演　午後三時〇〇分
会場　黒磯文化会館　大ホール
問い合せ先　黒磯ライオンズクラブ
　　会長　浅野
TEL　〇二八七（六二）七九六〇

○愛のサウンドフェスティバル 正秋バンドチャリティーコンサート

日時　平成一七年一一月五日（土）
会場　アミューたちかわ　大ホール
主催　東京光の家

あとがき

◎平成一七年最初の会報をお届けいたします。

◎傷つく命をいやし、生きる力を育む営みが福祉現場の仕事です。昨今、メールで自らの命を断つ人が寄り集まり、集団自殺をするニュースに接し驚きと悲しみで一杯。

◎当法人で成人式が開催された時「お父さんお母さん私を生んでくれてありがとう。今、私は自立を目指して頑張っています」と、二重三重の障害を持つ利用者の発言。これ、最高の親孝行。すばらしいハート。

◎今年は寒暖の差がはげしく、やっと四月一〇日に桜の開花情報がきかれ桜の木の下でシートを敷いて花見に興じる老若男女。会報一三三号に対するご感想等お寄せいただければ幸いです。（N・T）

発行　〒一九一－〇〇六五
東京都日野市旭が丘一－一七－一七
社会福祉法人　東京光の家
電話　〇四二（五八一）二三四〇
FAX　〇四二（五八一）九五六八
編集責任者　田中のぞみ